

11月の歩みもマルコの福音書を通して、イエス・キリストを学んでいきましょう。

1. イエスの教え (1章21～22節)

- ①カペナウム (1:21) 弟子たちが導かれたガリラヤ湖畔の北西にカペナウムという町がありました。漁業をする人たちが多くいる所でした。イエス・キリストはこの町での働きをよくなさいました。
- ②会堂で (1:21) どのような場所で宣教を行われたのかは興味深いですが、もちろん道路端であれ、市場の中であれ主はその働きをされました。しかし、安息日には会堂に出かけられました。ユダヤ人会堂でシナゴークと呼ばれる所でした。ユダヤ人にとっての安息日は土曜日でした。彼らにとっての礼拝の日です。その場所は精神的な拠り所であり、教育の場所でもあったのです。そこで主イエスは教えをされたのです。
- ③権威のある者のように (1:22) 人々はイエスの教えに驚きました。何に驚いたかといいますと、それは他の律法学者たちと違うのです。律法学者たちが果たしてきた役割をあまり低く評価してはいけませんが、いかんせん彼らの言葉は人々の魂に入ってきませんでした。ところが主イエスは「権威ある者のように教えられた」のです。まったく新鮮で人々の心の中に染み入るような、わかりやすい教えでした。

2. 汚れた霊の追放 (1章23～26節)

- ①汚れた霊につかれた人 (1:23) 会堂の中に汚れた霊につかれた人がいました。悪霊につかれたという表現が福音書によく出てきますが、ほとんど同じです。サタンが送った兵隊が悪霊といっても良いでしょう。汚れた霊につかれた人は、その魂が病んでしまうのです。彼は「大声でわめいた」と記されていますが、どこにも持っていきようのない、苦しさが彼のなかにはあったのでしょうか。
- ②汚れた霊の叫び (1:24) その人の叫びはこうでした。「ナザレのイエス。いったい私達に何をしようというのか。私達を滅ぼしに来たのでしょうか。あなたは神の聖者でしょう」。イエスが人々に救いを与えようと教えておられました。しかし、悪霊につかれています人には、イエスの教えが心のうちに反対して響いてくるのです。「神の聖者」といっているのは、その人の悪霊が抵抗だったのでしょうか。(参照ルカ9:37～)
- ③汚れた霊の追放 (1:25～26) 「黙れ」というお言葉は、かなり激しい調子ですね。これは、その人に対してというよりは、その人のうちに宿る汚れた霊に向かって言われているのです。「この人から出てゆけ」とある通りです。悪霊に向かって命ぜられるとは、まさに聖霊の権威によって主は命令をされたのです。すると、汚れた霊はその人をひきつけさせて、大声をあげて、その人から出ていったのです。ここでわかることは、汚れた霊は人の魂の肝腎なところを支配してしまうということです。主はその支配を解かれたのです。

3. 人々の反応 (1章27～28節)

- ①人々は驚き (1:27) 私たちは事件が起こるとよく驚きます。思ってもみなかったことが生じると驚きます。大分前に「びっくりしたな、もう」という言葉がはやったことがありました。人々はイエスの教えやなされることに驚いたのです。
- ②論じ合い (1:27) あなたがそこにいたなら、イエスについてどのように感じ、どのようなことを言ったでしょうか。「これはどうだ。権威のある、新しい教えだ。汚れた霊をさえ戒めると、従うのだから」と人々は一様に語っていたのでしょうか。教えの新鮮さは、知的に人々の心に響き、その心を震わせたことでしょうか。そして魂が汚れた霊により病んでいる人には、その根本問題である悪霊の追放をされたのですから、圧倒されるに違いありません。
- ③ガリラヤ全地に (1:28) 今日のようなテレビ、ラジオ、インターネットなどがある時代ではありません。しかし、人から人へとイエス・キリストの評判は伝わっていきました。ガリラヤ地域全体に広がっていったのですが、人から人へと伝わっていったのです。

【結論】 マグダラのマリヤという女性は信仰熱心な女性でしたが、七つの悪霊をイエス様に追い出していただいた人でした(ルカ8:2)。おそらくイエスさまに癒していたいたく前の、彼女の人生は悲惨だったでしょう。福音書には悪霊につかれた人ことがよく出てきます。彼らの人生は惨憺たるものでした。自分で自分のことが思うようにならず、突然と叫びだしたり、ひきつけたりして苦しみました。サタンの送る悪霊にその魂を支配されてがんじがらめになっていたのです。それでは、今日ではこの悪霊の働きはなくなっているのでしょうか。いいえ。その働きは同様に活発です。この悪霊に強く支配されてしまっている人がいるでしょう。また、適当につきあっている人がいるでしょう。強く支配されていれば、明らかに様子がおかしいので、自分も他人も気が付くでしょう。しかし、多くの人は悪霊とつきあっても、なんとも思わないのでかえって危ういかもかもしれません。サタンの思う壺かもしれません。この記事の人は主に悪霊を追い出してもらったので幸いです。私達はどうしたら良いでしょう。讚美歌375に答えがあります。①神のみ言葉を身につける ②主の御霊を剣とする ③神の助けを祈る。今の時代こそ、難しいのです。悪霊の働きを意識し、主により頼みましょう。そして癒していただきましょう。